

練馬区立南町小学校



# 南町小だより

つよく かしこく あたたかく

令和元年10月31日

校長 星美登里



一人一人が 役になりきって 夢と希望を届けよう  
きらめけ 南町シアター

校長 星美登里

10月は、台風や大雨が相次ぎました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

大きな学校行事で育つ2学期。学芸会の練習が始まりました。表題は、代表委員会の児童が考えた「学芸会テーマ」です。保護者の皆様には、衣装等の準備にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

今年の学芸会では、仲間と関わり合いながら、自分の役割をしっかりと果たし、皆でよりよいものを創り上げる学芸会を目指しています。それまでの練習の中で、友達のよさに気付くとともに、自分のよさや成長した自分にも気付いてほしいです。さらに、1年生から6年生まで南町小学校の全児童が一堂に会し、お互いの舞台を見合うことも、大変意義のあることです。低学年は高学年の演技の素晴らしさに触れ、お兄さん・お姉さんへの尊敬の念を深めていきます。

練習や準備については、今年の運動会同様、子供の意欲や主体的な活動を大切に、必要以上の時間を取りすぎることがないようにいたします。

私は6年生のとき、学芸会を経験しました。主役の一人をやりたいかったのですが、希望者多数でその場ですぐ、オーディションになりました。結果は落選。今から思えばセリフは棒読みでした。一方、主役についた友達とは、とても表情豊かでセリフの言い回しも上手で、納得のオーディションでした。オーディションに落ちた私は、セリフが一言しかない「旅人2」の役になりました。たった一言セリフの言い方を考えて何度も練習しました。劇をやりとげた気持ちは今も残っていますが、その劇の中で浮かぶのは、たった一言のセリフのシーンぐらいです。私の中では、私が主役だったかもしれません…。

よく、「みんなが主役」といいます。舞台の上では、たった一言かもしれませんが、「旅人2」にも劇の裏には「人生」があります。登場人物のすべてに「人生」があり、その「人生」の中ではその人が主役なのです。演劇は、テレビや映画と異なり、注目してほしい場面はアップになりませんし、画面の枠もありません。ですから、カメラやビデオのファインダーを通さずに生でご覧頂いた方が会場の空間全体の雰囲気や「主役のみんな」を感じることができ、より感動が高まるのではないのでしょうか。学芸会にぜひお越しいただき、子供たちに温かいご声援をいただけますよう、お願い申し上げます。そして、子供たちがキラキラと輝いているすばらしい歌や演技でしたら、大きな拍手を送っていただきたく存じます。

そして、実社会の子供たちも、自分の人生では自分が主役です。「夢と希望を届けよう」と、学芸会で思い切り自己表現をして得たことを、これからの自分の人生に生かしてほしいと思います。

